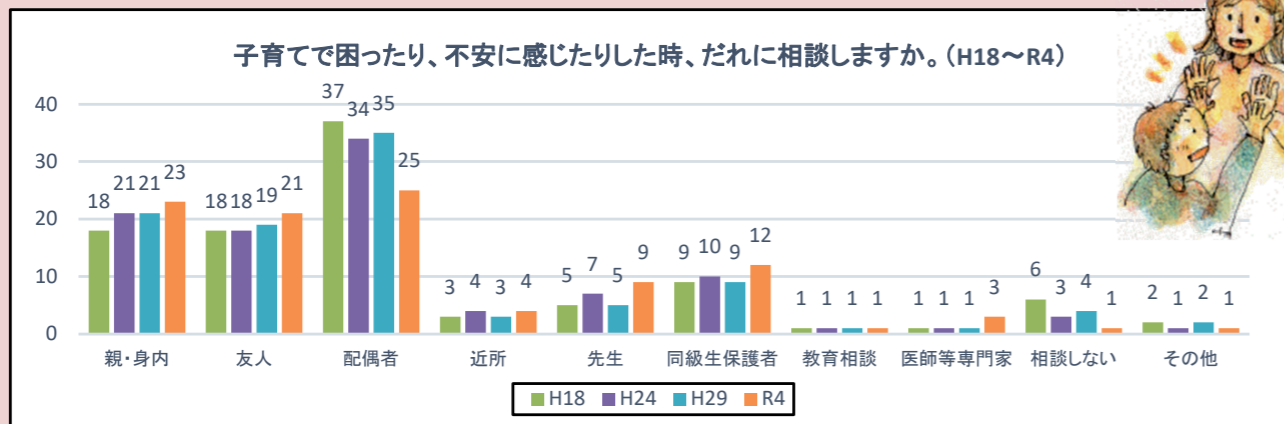
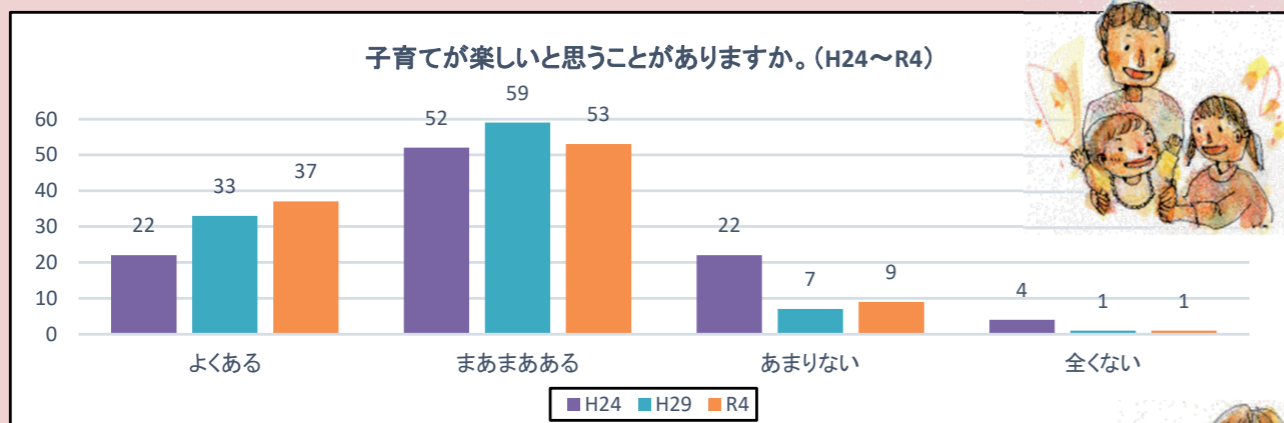


保護者自身が子育てを楽しみながら、子どもの成長を社会全体で支え合いましょう！



「子育ての楽しさ」については、「よくある」「まあまあある」を合わせた割合は90%ですが、一定数は子育てに何らかの悩みを感じています。また、相談事は、「親・身内」「配偶者」などの近い関係の範囲内に留める傾向があり、「教育相談」などの外部への相談は少ないままとっています。

◇ 子どもが健やかに成長するためには、家庭も健やかであることが必要です。保護者自身が子育てを楽しむためにも、悩みを感じた時は、身近な相談相手に加え、いつでも相談でき、専門的な助言がもらえる機関を利用してみましょう。

一人で悩まず 気軽にアクセス

① HP「ふくおか子育てパーク」
～子育てに役立つ情報がいっぱい～
<http://www.kosodate.pref.fukuoka.jp/>

② 子育ての悩みは「メール相談」
～子育て経験者がお受けします～
ふくおか子育てパークのコンテンツの相談フォームから受け付けています。

③ 家庭教育相談電話「親・おや電話」
～専門の相談員がお受けします～
電話 092-947-3515
月曜～土曜 (9:00～17:00)
※ただし、センターの休所日、第4土曜日及び祝日を除く

編集／発行
福岡県立社会教育総合センター
糟屋郡篠栗町大字金出 3350-2
電話 092-947-3512

※この調査の報告書及びダイジェスト版は、福岡県立社会教育総合センターのホームページ (<http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/>) からダウンロードできます。

ダイジェスト版

令和4年度「小学生の保護者の家庭教育に関する調査」のまとめ
～ 43年間の推移をふまえて ～

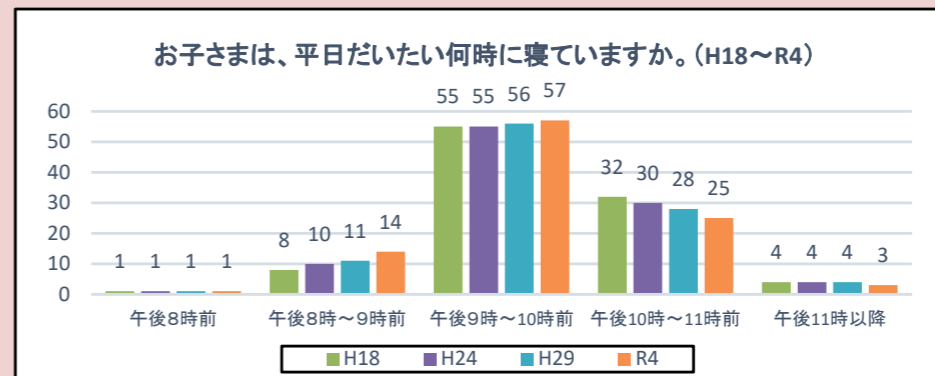
子育てや家庭教育について
みんなで考えていきましょう



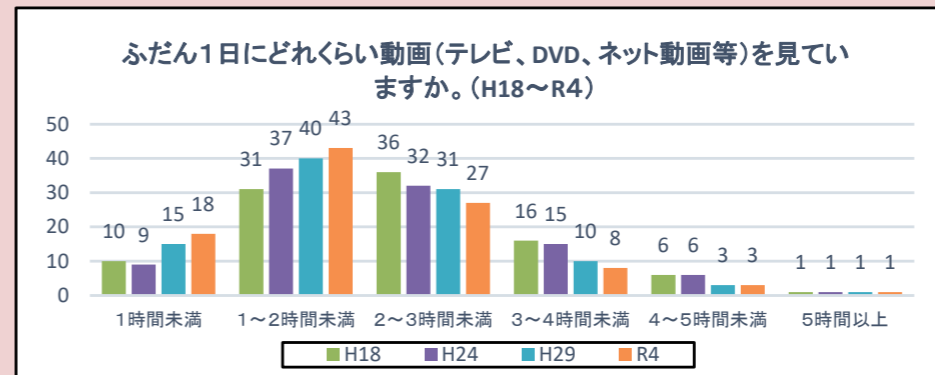
福岡県教育委員会では、令和4年度に「小学生の保護者の家庭教育に関する調査」を実施しました。この調査は昭和55年度から小学生の保護者に御協力いただき、約5年ごとに実施しているものです。今回で8回目になります。今回の調査や43年間の推移をもとに、現在の保護者の家庭教育の実態や思いをまとめました。これからの子育てや家庭教育の在り方を探るきっかけとして活用していただければ幸いです。

対象者：県下の小学生の保護者
有効回答数：男性保護者 1,751名
女性保護者 16,467名
合計 18,218名
※グラフについては、無回答分は省略しています。

規則正しい生活習慣を身に付けましょう！



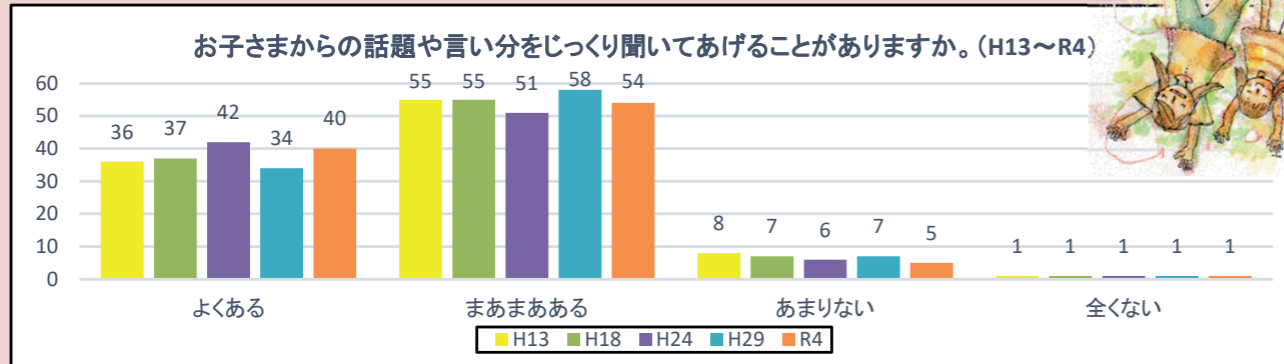
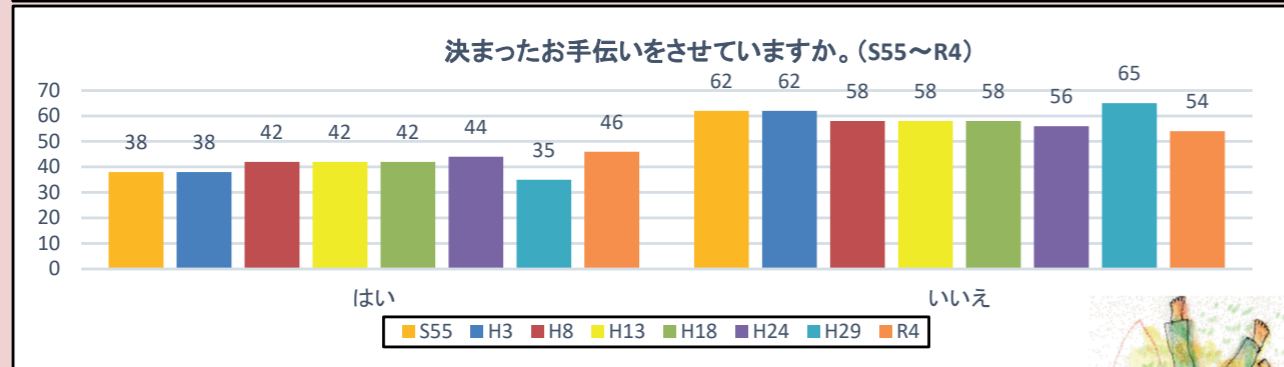
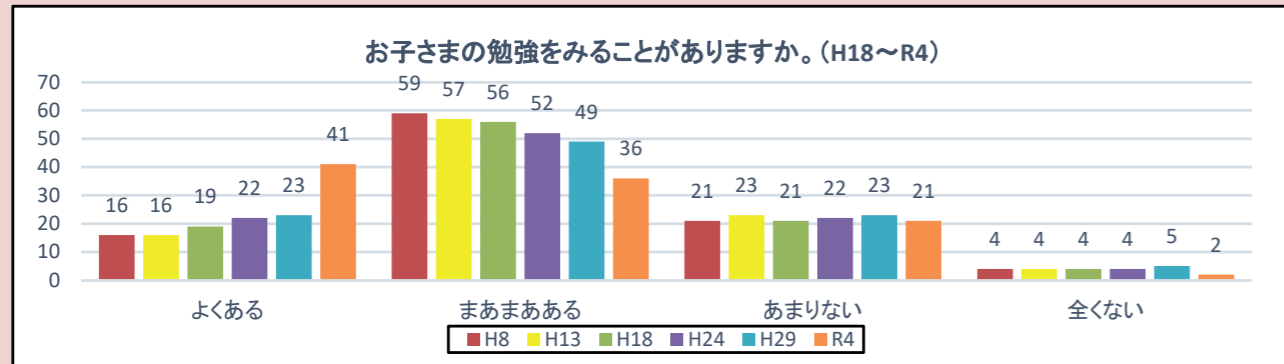
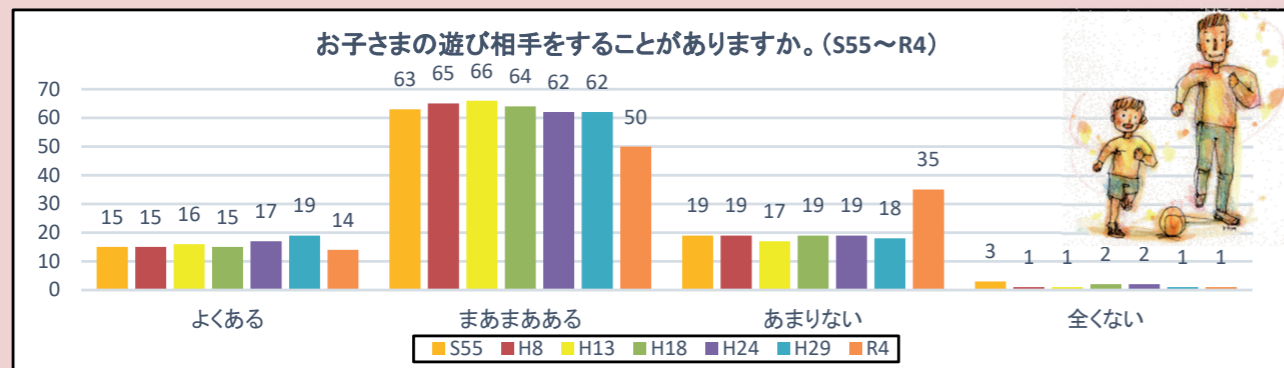
「就寝時刻」については、調査の回を追うごとに、早くなる傾向が見えます。平成18年度から令和4年度にかけて、「午後8時～9時前」は6%増加し、「午後10時～11時前」は7%減少しています。



「動画視聴時間」については、「1時間未満」「1～2時間」が増加傾向にあり、「2～3時間」以上は減少傾向にあります。また、73%が動画視聴時間のルールを決めているということも明らかになりました。

◇ 睡眠不足や眼精疲労などは、発達途上の子どもの今後の成長に対して、大きな影響を及ぼします。メディア利活用のルールなどを家庭で話し合い、規則正しい生活習慣を身に付けましょう。

家庭でのコミュニケーションを大切にしましょう！



「遊び相手」については、「あまりない」は大きく増加し、「よくある」「まあまあある」はともに減少しました。

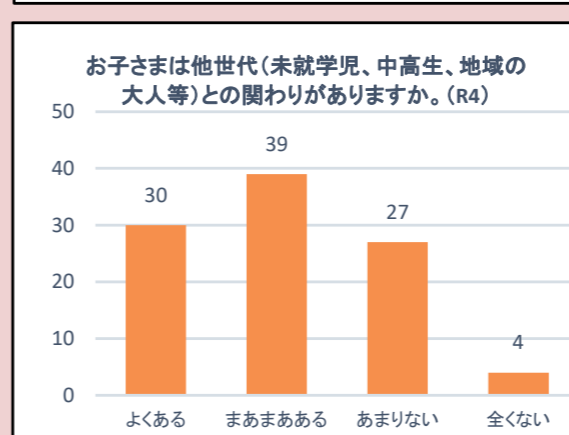
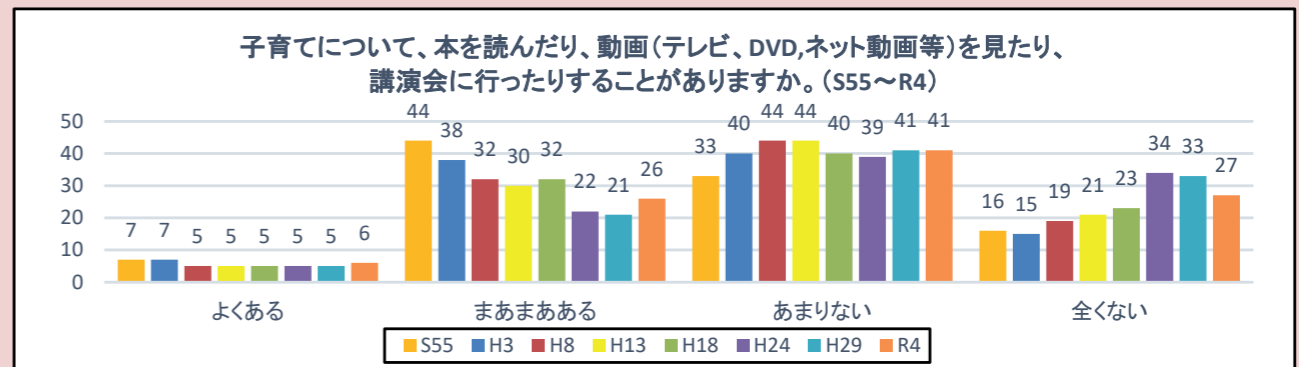
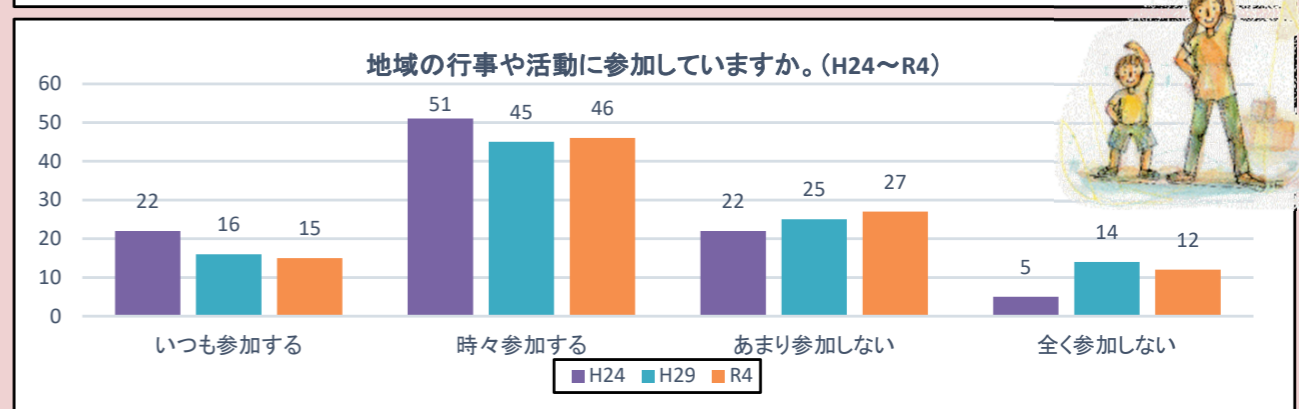
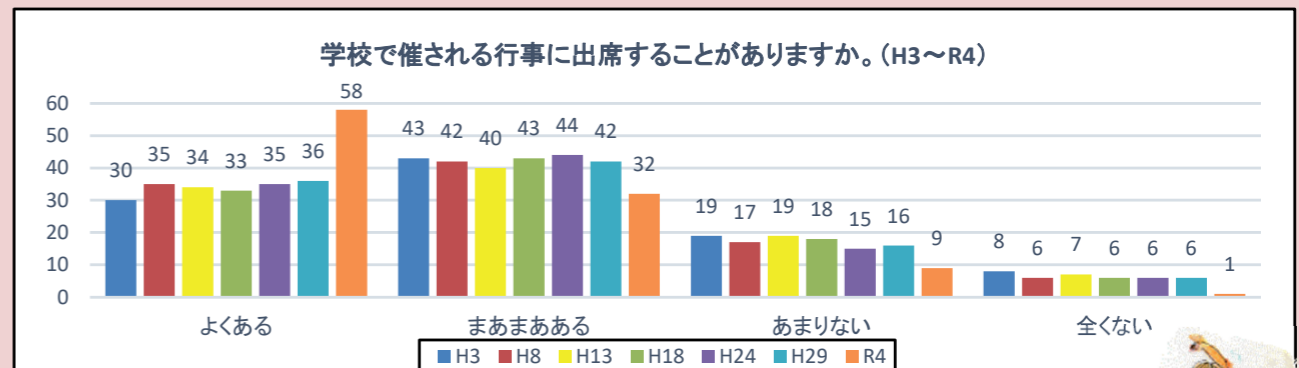
「勉強をみること」については、「よくある」が41%で、前回調査から18%増加しました。

「お手伝い」については、「はい」が46%で、前回調査から11%増加しました。

「言い分を聞くこと」については、「よくある」「まあまあある」を合わせた割合が94%で、親子のコミュニケーションを大切にしていることがわかります。

◇ 勉強をみることやお手伝いをしてもらうことも、子どもとコミュニケーションをとる方法の一つです。子どもと向き合い、しっかりと子どもの言葉に耳を傾けることを大切にしていきましょう。

保護者が地域と関わって、子どもの地域参加をすすめましょう！



「学校行事への参加」については、「よくある」が58%と、前回調査から大きく増加しています。

「地域行事への参加」については、「いつも参加する」が減少傾向、「あまり参加しない」が増加傾向にあり、地域との関わりが希薄になっていることがわかります。

「子育てについての学習」については、「まあまあある」が5%増加、「全くない」が6%減少しています。子育てへの関心の高まりを見ることができます。

一方で、「他世代との関わり」については、「よくある」「まあまあある」を合わせた割合が69%です。「全くない」と感じている保護者は4%でした。

◇ 保護者自身が、地域で活動しながら地域の教育力を高めると同時に、子どもに対して社会の一員としてのモデルを示すことが大切です。学校行事や地域行事などで、保護者同士がつながり、直接対話できるような場づくりを進めていきましょう。